



IVR と電話サービスを使用したネイティブ電話機の移行

- [IVR と電話サービスを使用したネイティブ電話機の移行の概要 \(1 ページ\)](#)
- [電話機移行の前提条件 \(5 ページ\)](#)
- [セルフプロビジョニング IVR を使用した電話機の移行タスクフロー \(6 ページ\)](#)
- [電話移行サービスを使用した電話移行タスクフロー \(13 ページ\)](#)
- [電話機移行レポートの表示 \(17 ページ\)](#)
- [Cisco Unified CM の管理インターフェイスを使用して電話機を移行 \(18 ページ\)](#)
- [移行シナリオ \(19 ページ\)](#)

IVR と電話サービスを使用したネイティブ電話機の移行の概要

電話移行機能は、Unified Communications Manager への Cisco IP 電話のネイティブな移行ソリューションです。廃止する電話機または故障した電話機の交換にかかるコストと複雑さを最小限に抑えます。このソリューションにより、エンドユーザまたは管理者は、シンプルなユーザインターフェイスですべての設定を古い電話機から新しい電話機に簡単に移行できます。ソリューションでは、次の方法で電話機を移行できます。

- セルフプロビジョニング IVR サービスの使用
- 電話移行サービスの使用
- Cisco Unified CM 管理インターフェイスの使用

次の表に、さまざまな電話移行オプションの簡単な比較を示します。

表 1: さまざまな電話移行オプションと考慮事項

	セルフプロビジョニング IVR サービスの使用	電話移行サービスの使用	Unified CM 管理インターフェイスの使用
エンドユーザまたは管理者主導の電話移行	エンドユーザ (Self-service)	エンドユーザ (Self-service)	管理者
自動登録が必要	○	いいえ	いいえ
移行手順	<ul style="list-style-type: none"> 新しい電話の自動登録 セルフプロビジョニングIVR番号のダイヤル 音声プロンプトに従う 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい電話をネットワークに接続する 一次内線番号と PIN を入力する (オプション) 	<ul style="list-style-type: none"> Cisco Unified CM 管理インターフェイスにサインインする 古い電話の [電話の構成] ページで [電話の移行] オプションを選択する 新しい電話の電話タイプ (モデルとプロトコル) と MAC アドレスを入力する
管理者の関与	中	低	高



(注) セルフプロビジョニング IVR サービスと電話移行サービスを使用した電話移行では、セルフサービスとしてエンドユーザによる電話の移行が容易になります。管理者は、これらの方法を使用して、エンドユーザまたは一般的な電話機 (ロビーの電話機など) に代わって電話機を移行できます。



(注) 電話機の移行中に、エンドユーザが PIN を覚えていない場合、管理者は、必要に応じて、セルフケアポータルにログインして PIN を変更するようにエンドユーザに通知する必要があります。

電話移行のエンタープライズパラメータ

移行は、[エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ページの次の 2 つのパラメータに依存します。

- エンドユーザの代替電話機をプロビジョニングする場合: [既存の電話機を保持 (Retain Existing Phone(s))] (デフォルトオプション) または [エンドユーザの既存の電話機を削除 (Delete

the Existing Phone for that End User)] を選択できます。[既存の電話の保持 (Retain Existing Phone (s))] オプションを選択すると、移行中に古い電話が移行済みとしてマークされ、[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ページでフィルタリングして移行レポートを生成できます。



- (注) 管理者が電話の移行に [既存の電話の保持 (Retain Existing Phone (s))] オプションを選択すると、合計2つのライセンスが消費されます。つまり、既存の電話と移行のために選択された新しい電話のそれぞれに1つのライセンスが消費されます。



- (注) 電話機の移行中に、管理者が電話機の移行に [既存の電話機を保持 (Retain Existing Phone (s))] オプションを選択した場合、インターコム DN は新しいデバイスに移行されません。[そのエンドユーザの既存の電話を削除する (Delete the Existing Phone for that End User)] オプションを選択すると、インターコム DN 情報も移行されます。

- **移行された電話のセキュリティプロファイル:** このオプションは、移行された電話 (古い電話がセキュアモードであった) に適用されるセキュリティプロファイルのタイプを決定します。非セキュアプロファイルを選択すると、デバイスは非セキュアモードになります。
- **[電話移行ユーザ識別プロンプト (Phone Migration User Identification Prompt)]:** このパラメータは、ユーザがセルフサービスユーザIDまたはプライマリ内線番号を使用して電話移行を続行できるかどうかを決定します。[エンドユーザセルフサービスユーザIDの使用 (Use Enduser Self-Service User ID)] オプションが選択されている場合、エンドユーザは、電話機の移行を進める前に、一意のセルフサービスユーザ ID を入力するように求められます。[エンドユーザのプライマリ内線番号を使用する (Use Enduser Primary Extension)] オプションが選択されている場合は、プライマリ内線番号を入力した後に電話機を移行できます。このモードでは、同じ DN が異なるルートパーティションに存在する場合、IVR または電話移行サービスを使用して電話を移行することはできません。

デフォルト値は [エンドユーザのプライマリ内線番号を使用 (Use Enduser Primary Extension)] です。

セキュアな電話移行を容易にするために、次の標準ユニバーサル電話セキュリティプロファイルテンプレートが追加されました。古い電話機のセキュリティプロファイルに基づいて、新しい電話機はこれらの新しいプロファイルのいずれかを選択します。

- ユニバーサルデバイステンプレート - セキュリティプロファイル: 非セキュア
- ユニバーサルデバイステンプレート - セキュリティプロファイル - 認証済み
- ユニバーサルデバイステンプレート - セキュリティプロファイル - 暗号化
- ユニバーサルデバイステンプレート - セキュリティプロファイル - 暗号化 - Device_TFTP

- ユニバーサルデバイステンプレート - セキュリティプロファイル - 暗号化された EC 優先

次の表に、電話機の移行後の新しいデバイスのセキュリティプロファイルマッピングを示します。

表 2: 電話セキュリティプロファイルの移行データ

古いセキュリティプロファイルの設定項目				新しいマッピング プロファイル名
[デバイスセキュリティモード (Device Security Mode)]	TFTP 暗号化設定	転送タイプ	[キーの順序 (Key Order)]	
Non-Secure	なし	TCP	RSA	ユニバーサルデバイステンプレート - セキュリティプロファイル - 非セキュア
認証	アクセス	TLS	RSA	ユニバーサルデバイステンプレート - セキュリティプロファイル - 認証済み
暗号化	アクセス	TLS	RSA	ユニバーサルデバイステンプレート - セキュリティプロファイル - 暗号化
暗号化	対応	TLS	RSA	ユニバーサルデバイステンプレート - セキュリティプロファイル - 暗号化 - Device_TFTP
暗号化	対応	TLS	EC 優先、RSA バックアップ	ユニバーサルデバイステンプレート - セキュリティプロファイル - 暗号化 - Device_TFTP

古いセキュリティプロファイルの設定項目				新しいマッピング プロファイル名
暗号化	アクセス	TLS	EC 優先、RSA バックアップ	ユニバーサルデバ イステンプレート -セキュリティプ ロファイル-暗号 化された EC 優先

電話機移行の前提条件

セルフプロビジョニング IVR の使用

エンドユーザが移行でセルフプロビジョニングを使用できるようにする前に、次の設定を構成する必要があります。

- 自動登録の有効化
- エンドユーザには、プライマリ内線番号が必要です。プライマリ DN が電話機またはデバイス上で常に回線 1 であることを確認します。
- エンドユーザは、ユニバーサル回線テンプレート、ユニバーサルデバイステンプレート、および自己プロビジョニングが有効になっているユーザプロファイルまたは機能グループテンプレートに関連付ける必要があります。
- 適切な「CTI ルートポイント」と「アプリケーションユーザ」の設定が選択されていることを確認します。
- セルフプロビジョニングの IVR サービスを有効にします。

電話移行サービスの使用

エンドユーザが移行で電話移行サービスを使用できるようにする前に、次の設定を構成する必要があります。

- 自動登録の無効化
- エンドユーザには、プライマリ内線番号が必要です。プライマリ DN が電話機またはデバイス上で常に回線 1 であることを確認します。
- サポートされる電話機モデル: 88XX、78XX、8832、および7832。
- サポートされている電話の最小バージョンは、リリース 12.8.1 以降です。

セルフプロビジョニング IVR を使用した電話機の移行タスクフロー

次のタスクフローを使用して、電話機の移行手順を実行します。

このワークフローを完了すると、セルフプロビジョニングの IVR サービスを設定したり、古いまたは異常な Cisco IP 電話を移行したり、移行された電話リストを追跡したりすることができます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
Step 1	セルフプロビジョニングのサービスの有効化 (7 ページ)	Cisco Unified Serviceability で、[セルフプロビジョニング IVR (Self-Provisioning IVR)] サービスと [CTI Manager (CTI Manager)] サービスを有効にします。
Step 2	セルフプロビジョニングの自動登録の有効化 (7 ページ)	セルフプロビジョニング用の自動登録パラメータを有効にします。
Step 3	CTI ルート ポイントの設定 (8 ページ)	セルフプロビジョニングの IVR サービスを処理するために、CTI ルートポイントを設定します。
Step 4	CTI ルートポイントへの電話番号の割り当て (8 ページ)	ユーザが自動プロビジョニング IVR にアクセスするためにダイヤルインする内線番号を設定し、その内線番号を CTI ルートポイントに関連付けます。
Step 5	セルフプロビジョニングのアプリケーションユーザーの設定 (9 ページ)	セルフプロビジョニング IVR 向けのアプリケーションユーザーの設定 CTI ルートポイントをアプリケーションユーザーに関連付けます。
Step 6	セルフプロビジョニングのシステムの設定 (10 ページ)	自己プロビジョニングシステムの設定を構成します。
Step 7	ユーザープロファイルでのセルフプロビジョニングの有効化 (11 ページ)	ユーザが割り当てられているユーザープロファイルで電話機をセルフプロビジョニングできるようにします。
Step 8	次のいずれかの手順を使用して電話機を移行します。 <ul style="list-style-type: none"> セルフプロビジョニング IVR を使用した電話機の移行 (管理者) (12 ページ) 	自分に適用される移行手順を選択します。セルフプロビジョニングの IVR は、管理者または電話機のいずれかのユーザが電話機を移行する際に使用できます。

	コマンドまたはアクション	目的
	<ul style="list-style-type: none"> セルフプロビジョニング IVR を使用した電話機の移行 (電話機ユーザ) (12 ページ) 	
Step 9	電話機移行レポートの表示 (17 ページ)	移行の後、移行された Cisco IP 電話を示すレポートを表示します。

セルフプロビジョニングのサービスの有効化

セルフプロビジョニング機能をサポートするサービスをアクティブ化するには、次の手順を使用します。セルフプロビジョニング用 IVR サービスと Cisco CTI Manager サービスの両方が実行されていることを確認します。

手順

-
- Step 1** Cisco Unified Serviceability から、[ツール (Tools)] > [サービスのアクティブ化 (Service Activation)] を選択します。
 - Step 2** [サーバ (Server)] ドロップダウンリストからパブリッシャノードを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
 - Step 3** [CM サービス (CM Services)] で、[Cisco CTI Manager] をオンにします。
 - Step 4** [CTI サービス (CTI Services)] で、[セルフプロビジョニング IVR (Self Provisioning IVR)] をオンにします。
 - Step 5** [保存 (Save)] をクリックします。
-

セルフプロビジョニングの自動登録の有効化

セルフプロビジョニングにこの手順を使用するためには、パブリッシャで自動登録パラメータを設定する必要があります。

手順

-
- Step 1** Cisco Unified CM Administration で、[システム (System)] > [Cisco Unified CM (Cisco Unified CM)] を選択します。
 - Step 2** パブリッシャノードをクリックします。
 - Step 3** プロビジョニングされた電話機に適用するユニバーサルデバイステンプレートを選択します。
 - Step 4** プロビジョニングされた電話機の電話回線に適用するユニバーサル回線テンプレートを選択します。

- Step 5** [開始電話番号 (Starting Directory Number)] および [終了電話番号 (Ending Directory Number)] フィールドを使用して、プロビジョニングする電話に適用する電話番号の範囲を入力します。
- Step 6** [このCisco Unified CMでは自動登録は無効にする (Auto-registration Disabled on the Cisco Unified Communications Manager)] チェックボックスをオフにします。
- Step 7** SIP 登録に使用するポートを確認します。ほとんどの場合、ポートをデフォルト設定から変更する必要はありません。
- Step 8** [保存 (Save)] をクリックします。

CTI ルートポイントの設定

セルフプロビジョニング IVR 用の CTI ルートポイントを設定するには、この手順を使用します。

手順

- Step 1** Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)] を選択します。
- Step 2** 次のいずれかの手順を実行します。
 - a) [検索 (Find)] をクリックし、既存の CTI ルートポイントを選択します。
 - b) [新規追加 (Add New)] をクリックして、新しい CTI ルートポイントを作成します。
- Step 3** [デバイス名 (Device Name)] フィールドに、ルートポイントを識別する一意の名前を入力します。
- Step 4** [デバイスプール (Device Pool)] ドロップダウンリストで、このデバイスのプロパティを指定するデバイスプールを選択します。
- Step 5** [ロケーション (Location)] ドロップダウンリストから、この CTI ルートポイントの適切なロケーションを選択します。
- Step 6** [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] ドロップダウンリストから、Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントを使用してトラステッドリレーポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを選択します。デフォルト設定では、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の設定が使用されます。
- Step 7** [CTI ルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドに入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- Step 8** [保存 (Save)] をクリックします。

CTI ルートポイントへの電話番号の割り当て

セルフプロビジョニング用の IVR にアクセスするためにユーザがダイヤルする内線番号を設定するには、この手順を使用します。この内線を、セルフプロビジョニングに使用する CTI ルートポイントに関連付ける必要があります。

手順

-
- Step 1** Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)] を選択します。
- Step 2** [[検索 (Find)]] をクリックして、セルフプロビジョニング用に設定した CTI ルートポイントを選択します。
- Step 3** [割り当て (Association)] で、[回線 [1] - 新しい DN の追加 (Line [2] - Add a new DN)] をクリックします。
[電話番号の設定(Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- Step 4** [電話番号 (Directory Number)] フィールドに、セルフプロビジョニング IVR サービスにアクセスするためにダイヤルする内線番号を入力します。
- Step 5** [保存 (Save)] をクリックします。
- Step 6** [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドを入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- Step 7** [保存 (Save)] をクリックします。
-

セルフプロビジョニングのアプリケーションユーザーの設定

セルフプロビジョニング IVR 用にアプリケーションユーザーを設定し、アプリケーションユーザーに作成した CTI ルーティング ポイントを関連付ける必要があります。

手順

-
- Step 1** Cisco Unified CM Administration から、[ユーザ (User)] > [アプリケーションユーザー (Application User)] を選択します。
- Step 2** 次のいずれかの手順を実行します。
- 既存のアプリケーションユーザーを選択するには、[検索 (Find)] をクリックして、アプリケーションユーザーを選択します。
 - 新しいアプリケーションユーザーを作成するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- Step 3** [ユーザ ID (User ID)] テキストボックスに、アプリケーションユーザーの一意の名前を入力します。
- Step 4** アプリケーションユーザーの [BLF プレゼンス グループ (BLF Presence Group)] を選択します。
- Step 5** アプリケーションユーザーに作成した CTI ルーティング ポイントを関連付けるには、次の手順を実行します。
- 作成した CTI ルーティング ポイントが、[使用可能なデバイス (Available Devices)] リストボックスに表示されない場合は、[別のルートポイントを検索 (Find More Route Points)] をクリックします。
作成した CTI ルーティング ポイントが、使用可能なデバイスとして表示されます。

- b) [使用可能なデバイス (Available Devices)] リストで、セルフプロビジョニング用に作成した CTI ルートポイントを選択し、下向き矢印をクリックします。
CTI ルートポイントが [制御するデバイス (Controlled Devices)] リストに表示されます。

- Step 6** [アプリケーションユーザーの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウの他のフィールドを設定します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- Step 7** [保存 (Save)] をクリックします。

セルフプロビジョニングのシステムの設定

システムをセルフプロビジョニング用に設定するには、次の手順を使用します。セルフプロビジョニングは、ネットワーク内のユーザが管理者に連絡をとらずに IVR システムを介して自分のデスクフォンを追加できる機能を提供します。



- (注) セルフプロビジョニング機能を使用するには、エンドユーザのユーザープロファイルでも該当機能を有効にする必要があります。

手順

- Step 1** Cisco Unified CM Administration から、[ユーザ管理 (User Management)] > [セルフプロビジョニング (Self-Provisioning)] を選択します。
- Step 2** セルフプロビジョニング IVR でエンドユーザを認証するかどうかを設定するには、次のオプションボタンのいずれかをクリックします。
- [認証が必要 (Require Authentication)]: セルフプロビジョニング IVR を使用するには、エンドユーザが自分のパスワード、PIN、またはシステム認証コードを入力する必要があります。
 - [認証は必要なし (No Authentication Required)]: エンドユーザは認証なしでセルフプロビジョニング IVR にアクセスできます。
- Step 3** セルフプロビジョニング IVR で認証を要求するように設定されている場合、次のオプションボタンのいずれかをクリックして、IVR がエンドユーザを認証する方法を設定します。
- [エンドユーザのみを認証 (Allow authentication for end users only)]: エンドユーザは自分のパスワードまたは PIN を入力する必要があります。
 - [ユーザ (Password/PIN の入力) および管理者 (認証コードの入力) を認証 (Allow authentication for users (via Password/PIN) and Administrators (via Authentication Code))]: エンドユーザは認証コードを入力する必要があります。このオプションを選択した場合、認証コードとして、0 から 20 桁までの整数を [認証コード (Authentication Code)] テキストボックスに入力します。

- Step 4** [IVR 設定 (IVR Settings)] のリストボックスから、矢印を使用して IVR プロンプトで使用する言語を選択します。使用可能な言語は、システムにインストールした言語パックによって異なります。追加の言語パックをダウンロードするには、cisco.com のダウンロードセクションを参照してください。
- Step 5** [CTI ルートポイント (CTI Route Points)] ドロップダウンリストから、セルフプロビジョニング IVR 用に設定した CTI ルートポイントを選択します。
- Step 6** [アプリケーションユーザ (Application User)] ドロップダウンリストから、セルフプロビジョニング用に設定したアプリケーションユーザーを選択します。
- Step 7** [保存 (Save)] をクリックします。

ユーザープロファイルでのセルフプロビジョニングの有効化

ユーザが電話をセルフプロビジョニングできるようにするには、その機能が割り当てられているユーザプロファイルで有効になっている必要があります。



- (注) ユーザが使用しているユーザープロファイルがわからない場合は、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウでユーザの設定を開き、[ユーザプロファイル (User Profile)] フィールドで正しいプロファイルを確認できます。

手順

- Step 1** Cisco Unified CM Administration から、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [ユーザプロファイル (User Profile)] を選択します。
- Step 2** [検索 (Find)] をクリックして、ユーザが割り当てられているユーザプロファイルを選択します。
- Step 3** そのユーザープロファイルにユニバーサル回線テンプレートとユニバーサルデバイステンプレートを割り当てます。
- Step 4** セルフプロビジョニング用のユーザの設定
- [エンドユーザに自分の電話のプロビジョニングを許可 (Allow End User to Provision their own phones)] チェックボックスをオンにします。
 - ユーザがプロビジョニングできる電話機の数の制限を入力します。デフォルトは 10 です。
 - ユーザがセルフプロビジョニングを使用して以前に割り当てられた電話機を無効にしたい場合は、古いデバイスのエンドユーザに関連付けられているユーザープロファイルページで、別のエンドユーザに割り当てられている電話機の [別のエンドユーザーにすでに割り当てられている電話のプロビジョニングを許可する] 設定を確認します。以前に割り当てられた電話機をユーザが再割り当てできるのは、古いデバイスに関連付けられているユーザープロファイル内でこのチェックボックスをオンにした場合のみです。
- Step 5** [保存 (Save)] をクリックします。

電話機移行タスク

セルフプロビジョニング認証が設定されたら、次のいずれかの手順を使用して電話機を移行します。

セルフプロビジョニング IVR を使用した電話機の移行 (管理者)

管理者はこの手順を使用して、エンドユーザの代わりに Cisco IP 電話を移行したり、一般的な電話機 (ロビーフォンなど) を移行したりできます。

始める前に

移行を進める前に、古い電話機が「未登録」状態になっていることを確認します。新しい電話機をネットワークに接続して、電話機が登録されてから移行タスクを実行することができます。移行が正常に完了すると、デバイスはユーザの電話設定データに再登録されます。

手順

-
- Step 1** セルフプロビジョニングの IVR に割り当てられている内線番号を新しい電話機からダイヤルします。
 - Step 2** 2 を押すと、既存の電話機が置き換え可能です。
 - Step 3** エンドユーザの電話機または共通の電話のプライマリ内線番号の後にポンドキー (#) を入力します。
 - Step 4** 認証コードの後にポンドキー (#) を入力します。

移行は、認証が正常に行われた後に開始されます。移行の後、電話機は、エンドユーザの古い電話から移行された設定で再起動します。

セルフプロビジョニング IVR を使用した電話機の移行 (電話機ユーザ)

電話機のユーザはこの手順を使用して、新しい Cisco IP 電話に移行できます。

始める前に

移行を進める前に、古い電話機が「未登録」状態になっていることを確認します。新しい電話機をネットワークに接続して、電話機が登録されてから移行タスクを実行することができます。移行が正常に完了すると、デバイスはユーザの電話設定データに再登録されます。

手順

-
- Step 1** セルフプロビジョニングの IVR に割り当てられている内線番号を新しい Cisco IP 電話からダイヤルします。
 - Step 2** 2 を押すと、既存の電話機が置き換え可能です。

Step 3 電話機のプライマリ内線番号の後にポンドキー(#)を入力します。

Step 4 ポンドキー(#)の後にPINを入力します。

移行は、認証が正常に行われた後に開始されます。移行が正常に実行された後、電話機は古い電話から移行された設定で再実行されます。

(注) 電話機を別のユーザに割り当てる場合、管理者がユーザの[ユーザプロファイル]ウィンドウで[別のエンドユーザに割り当てられている電話機のプロビジョニングを許可]オプションが有効になっている場合、電話機のユーザは電話機を再プロビジョニングできます。このオプションについては、管理者に問い合わせてください。

電話移行サービスを使用した電話移行タスクフロー

次のタスクフローを使用して、電話の移行サービスを使用した電話の移行手順をガイドします。

このワークフローを完了すると、古いまたは異常な Cisco IP 電話を移行したり、移行された電話リストを追跡したりすることができます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
Step 1	自動登録の無効化 (13 ページ)	電話機の移行前に自動登録パラメータを無効にします。
Step 2	デフォルトの電話負荷の設定 (14 ページ)	電話移行サービスの前にデフォルトの電話負荷を設定します。
Step 3	セルフプロビジョニング認証の設定 (14 ページ)	必要なセルフプロビジョニング認証設定を構成します。
Step 4	次のいずれかの手順を使用して電話機を移行します。 <ul style="list-style-type: none"> 電話移行サービスを使用した電話の移行 (管理者) (15 ページ) 電話移行サービスを使用した電話の移行 (電話ユーザ) (16 ページ) 	自分に適用される移行手順を選択します。電話移行サービスは、管理者または電話機のいずれかのユーザが電話機を移行する際に使用できます。
Step 5	電話機移行レポートの表示 (17 ページ)	移行の後、移行された Cisco IP 電話を示すレポートを表示します。

自動登録の無効化

電話移行サービスを使用するには、自動登録を無効にする必要があります。

手順

-
- Step 1** Cisco Unified CM Administration で、[システム (System)] > [Cisco Unified CM (Cisco Unified CM)] を選択します。
 - Step 2** パブリッシュノードをクリックします。
 - Step 3** [このCisco Unified CMでは自動登録は無効にする (Auto-registration Disabled on this Cisco Unified Communications Manager)] チェックボックスをオンにします。
 - Step 4** SIP登録に使用するポートを確認します。ほとんどの場合、ポートをデフォルト設定から変更する必要はありません。
 - Step 5** [保存 (Save)] をクリックします。
-

デフォルトの電話負荷の設定

電話移行サービスの前にデフォルトの電話負荷を設定するには、次の手順を使用します。

手順

-
- Step 1** Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [デバイスのデフォルト (Device Defaults)] を選択します。
 - Step 2** 移行に必要な電話モデルを選択します。
 - Step 3** 電話ロードを入力し、電話ロードの [スワップロード (Swap Loads)] ボタンをクリックして、デフォルトの電話ロードにします。
 - Step 4** [保存 (Save)] をクリックします。
-

セルフプロビジョニング認証の設定

電話移行サービスは、電話の移行前にセルフプロビジョニングシステム設定を使用してユーザを認証します。

手順

-
- Step 1** Cisco Unified CM Administration から、[ユーザ管理 (User Management)] > [セルフプロビジョニング (Self-Provisioning)] を選択します。
 - Step 2** セルフプロビジョニングでエンドユーザを認証するかどうかを設定するには、次のオプションボタンのいずれかをクリックします。
 - **[認証が必要 (Require Authentication)]**: セルフプロビジョニングを使用するには、エンドユーザが自分のパスワード、PIN、またはシステム認証コードを入力する必要があります。

- [認証は必要なし (No Authentication Required)]: エンドユーザは認証なしでセルフプロビジョニングにアクセスできます。

Step 3 セルフプロビジョニング機能で認証を要求するように設定されている場合、次のオプションボタンのいずれかをクリックして、セルフプロビジョニングオプションがエンドユーザを認証する方法を設定します。

- [エンドユーザのみを認証 (Allow authentication for end users only)]: エンドユーザは自分のパスワードまたは PIN を入力する必要があります。
- [ユーザ (Password/PIN の入力) および管理者 (認証コードの入力) を認証 (Allow authentication for users (via Password/PIN) and Administrators (via Authentication Code))]: エンドユーザは認証コードを入力する必要があります。このオプションを選択した場合、認証コードとして、0 から 20 桁までの整数を [認証コード (Authentication Code)] テキストボックスに入力します。

Step 4 [保存 (Save)] をクリックします。

電話機移行タスク

セルフプロビジョニング認証が設定されたら、次のいずれかの手順を使用して電話機を移行します。

電話移行サービスを使用した電話の移行 (管理者)

管理者はこの手順を使用して、エンドユーザの代わりに Cisco IP 電話を移行したり、一般的な電話機 (ロビーフォンなど) を移行したりできます。

始める前に

移行を進める前に、古い電話機が「未登録」状態になっていることを確認します。新しい電話機をネットワークに接続し、電話機の移行またはプロビジョニングのプロンプトが表示されるまで待つから、移行プロセスを開始できます。移行が正常に完了すると、デバイスはユーザの電話設定データに再登録されます。

手順

Step 1 新しい Cisco IP 電話をネットワークに接続します。

Step 2 オプション 2 を選択して、既存の電話を交換します。

- (注) 管理者がアクティベーションコードベースのデバイスのオンボーディングを設定していない場合、またはアクティベーションコードをサポートしていない Unified Communications Manager の 11.5(1)SU8 バージョンで電話機の移行が行われた場合、電話機にはプライマリ内線番号を入力する画面が表示されます。

Step 3 お使いの電話ののプライマリ内線番号を入力します。

Step 4 認証コードを入力します。

移行は、認証が正常に行われた後に開始されます。移行が正常に実行された後、電話機は古い電話から移行された設定で再実行されます。

(注) [デバイスのデフォルト設定 (Device Defaults Configuration)] ページで [オンプレミスのオンボーディング方法 (On-premise Onboarding Method)] オプションが [自動登録 (Auto registration)] として選択されているシナリオを考えます。電話機の移行の実行中に、エラーメッセージが表示されたときに [終了 (Exit)] または [戻る (BACK)] ボタンを押すと、予想される遅延の後に電話機の初期移行画面に直接移動します。この遅延は、Unified Communications Manager サーバで自動登録が無効になっているため、電話機が Unified CM に再登録しようとするために発生します。

(注) 同じプライマリ内線番号を持つユーザに対して複数のデバイスがある場合、ユーザは移行するデバイスを選択するように求められます。詳細については、[電話移行サービス：複数のデバイスが割り当てられたユーザ \(19 ページ\)](#) を参照してください。

電話移行サービスを使用した電話の移行（電話ユーザ）

電話機のユーザはこの手順を使用して、非 IVR 方式で新しい Cisco IP 電話に移行できます。電話機をネットワークに接続すると、電話機は起動と設定を試みます。デフォルトの電話負荷から、[新しい電話をプロビジョニングする (Provision a new phone)] または [既存の電話を交換する (Replace an existing phone)] を選択するオプションが表示されます。



(注) エンドユーザーは、古いデバイスの所有者である場合にのみ移行を実行する必要があります。

始める前に

移行を進める前に、古い電話機が「未登録」状態になっていることを確認します。新しい電話機をネットワークに接続し、電話機の移行またはプロビジョニングのプロンプトが表示されるまで待ってから、移行プロセスを開始できます。移行が正常に完了すると、デバイスはユーザの電話設定データに再登録されます。

手順

Step 1 新しい Cisco IP 電話をネットワークに接続します。

Step 2 オプション **2** を選択して、既存の電話を交換します。

(注) 管理者がアクティベーションコードベースのデバイスのオンボーディングを設定していない場合、またはアクティベーションコードをサポートしていない Unified Communications Manager の 11.5(1)SU8 バージョンで電話機の移行が行われた場合、電話機にはプライマリ内線番号を入力する画面が表示されます。

Step 3 お使いの電話ののプライマリ内線番号を入力します。

Step 4 PIN を入力します。

移行は、認証が正常に行われた後に開始されます。移行が正常に実行された後、電話機は古い電話から移行された設定で再実行されます。

(注) [デバイスのデフォルト設定 (Device Defaults Configuration)] ページで [オンプレミスのオンボーディング方法 (On-premise Onboarding Method)] オプションが [自動登録 (Auto registration)] として選択されているシナリオを考えます。電話機の移行の実行中に、エラーメッセージが表示されたときに [終了 (Exit)] または [戻る (BACK)] ボタンを押すと、予想される遅延の後に電話機の初期移行画面に直接移動します。この遅延は、Unified Communications Manager サーバで自動登録が無効になっているため、電話機が Unified CM に再登録しようとするために発生します。

(注) 同じプライマリ内線番号を持つユーザに対して複数のデバイスがある場合、ユーザは移行するデバイスを選択するように求められます。詳細については、[電話移行サービス: 複数のデバイスが割り当てられたユーザ \(19 ページ\)](#) を参照してください。

電話移行サービスの COP ファイル

11.5(1) から 11.5(1)SU7 までのいずれかのバージョンの Unified Communications Manager を実行している場合は、電話移行サービスの COP ファイル (ciscocm-migration-service-11-5-1.zip) をインストールして、ネイティブ電話移行機能をサポートします。

COP ファイルのインストールの一部として、Unified Communications Manager の「Tftp restart」サービスが自動的に実行されます。



(注) Phone Migration Service COP ファイルのインストール後に Unified CM をアップグレードする場合は、Unified CM サーバを、ネイティブ電話移行機能をネイティブでサポートするリリースバージョンにアップグレードしてください。

電話機移行レポートの表示

移行されたすべての Cisco IP 電話のリストを表示するには、この手順を使用します。

手順

- Step 1** [Cisco Unified CM Administration] で、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
- Step 2** [電話機の検索とリスト] ページで、[電話機検索] ドロップダウンリストから [移行(古い電話機)] を選択します。
- Step 3** [検索 (Find)] をクリックします。

移行したすべての古いデバイスのリストを表示できます。このリストが入力されるのは、[エンタープライズ パラメータ] ページで [既存の電話機を保持する] オプションが設定されている場合のみです。

Cisco Unified CM の管理インターフェイスを使用して電話機を移行

Cisco Unified CM の管理インターフェイスの [電話テンプレート(Phone Template)] または [電話タイプ(およびプロトコル)] オプションのいずれかを使用して電話機を移行するには、この手順を使用します。

手順

- Step 1** [電話の検索と一覧表示(Find and List Phones)] ウィンドウ ([デバイス > 電話] で、移行する Cisco IP 電話の設定を検索します。
- Step 2** 移行する Cisco IP 電話の [電話の設定(Phone Configuration)] ウィンドウで、[関連リンク(Related Links)] ドロップダウン リストから [電話機の移行 (Migrate Phone)] を選択します。
- Step 3** 次のオプションを使用して、電話機を移行できます。
 - a) [電話 テンプレート(Phone Template)]: 電話機の設定を移行する電話機モデルの電話機テンプレートを選択します。
 - b) [電話機のタイプ(およびプロトコル)]: 電話機の設定を移行する Cisco IP 電話モデルを選択します。
- Step 4** 設定を移行する新しい Cisco Unified IP 電話の **MAC アドレス** を入力します。
- Step 5** (オプション) 新しい電話の説明を入力します。移行の検討事項と設定の詳細については、*Cisco Unified CM* の管理のオンラインヘルプ ページを参照してください。
- Step 6** [保存 (Save)] をクリックします。

新しい電話機は機能が失われる可能性があるという警告メッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。移行後、新しいデバイスは古い電話機の設定を継承します。

移行シナリオ

共有電話を使用している電話機

旧バージョンの電話機にプライマリ DN と複数のデバイスが共有されている場合を考えてみましょう。これらのデバイスは、同じユーザまたは複数のユーザによって所有されている可能性があります。共有電話を使用して、古い電話機を新しい Cisco IP 電話に移行しようとする、その DN を持つデバイスを所有しているユーザに対してのみ、回線 1 として移行が可能になります。ここでは、電話機の移行後に共有電話機能の設定が引き継がれます。

古い電話機が共有回線機能をサポートしていない場合、古い電話機の回線は電話機の移行後に削除されます。新しい電話機は、電話機の移行後に古い電話機の回線を保持します。

プロキシ TFTP で実行されている電話移行サービス

Phone Migration Service を使用したネイティブ電話移行は、Cisco プロキシ TFTP サーバの導入モデルをサポートします。

プロキシ TFTP で実行されている電話移行サービスは、すべてのリモートクラスタでプライマリ内線番号を検索し、電話をホームまたはローカルの電話移行サービスにリダイレクトして、電話の移行を完了します。

プロキシ設定環境では、Unified Communications Manager サーバは、リモートクラスタ内で同じ DN を持つデバイスを検索します。いずれかのオフクラスタに同じ DN を持つ登録済みまたは登録解除状態のデバイスが複数ある場合、その特定のオフクラスタからのデバイスは電話移行の対象になりません。これは、リリース 11.5(1)SU8 の既知の制限です。



(注) 移行が正常に実行された後、電話機は古い電話から移行された設定で再実行されます。移行が正常に完了した後、電話機の再起動にはリセットサイクルが 2 回かかることに注意してください。

電話移行サービス：複数のデバイスが割り当てられたユーザ

移行用のプライマリ内線番号が同じユーザ用のデバイスが複数ある場合、移行するデバイスを選択するように求められます。

次の表に、考えられるさまざまな移行シナリオを示します。

表 3: デバイスのリストと移行のシナリオ

	電話機移行前のデバイスステータス	移行中の電話機の表示
シナリオ 1	デバイス 1: 登録済み デバイス 2: 未登録	デバイス 2 の電話設定が移行されます。
シナリオ 2	デバイス 1: 登録済み デバイス 2: 登録済み デバイス 3: 未登録	デバイス 3 の電話設定が移行されます。
シナリオ 3	デバイス 1: 登録済み デバイス 2: 未登録 デバイス 3: 未登録	[説明 (Description)]、[電話モデル (Phone Model)]、および [MAC アドレス (MAC Address)] を含むデバイスリストを表示します。ユーザは、電話の移行に必要なデバイスをリストから選択する必要があります。
シナリオ 4	デバイス 1: 未登録 デバイス 2: 未登録 デバイス 3: 未登録	[説明 (Description)]、[電話モデル (Phone Model)]、および [MAC アドレス (MAC Address)] を含むデバイスリストを表示します。ユーザは、電話の移行に必要なデバイスをリストから選択する必要があります。
シナリオ 5	デバイス 1: 登録済み デバイス 2: 登録済み デバイス 3: 登録済み	[説明 (Description)]、[電話モデル (Phone Model)]、および [MAC アドレス (MAC Address)] を含むデバイスリストを表示します。ユーザは、電話の移行に必要なデバイスをリストから選択する必要があります。

	電話機移行前のデバイスステータス	移行中の電話機の表示
シナリオ 6	3 つ以上のデバイスが登録済みまたは未登録の状態です	[説明 (Description)]、[電話モデル (Phone Model)]、および [MACアドレス (MAC Address)] を含むデバイスリストを表示します。ユーザは、電話の移行に必要なデバイスをリストから選択する必要があります。

Unified CM パラメータ設定に基づくデバイス表示

次の表に、Cisco Unified Communications Manager のリリースバージョンと関連する設定に基づく、新しい電話機の移行画面の動作を示します。

表 4: さまざまな Unified CM パラメータ設定に基づくデバイス表示

管理者によって事前設定された電話またはデバイス	企業レベルでの自動登録の有効化	デバイスデフォルトレベルでのオンボーディング方式	電話移行サービスを使用しない場合の動作	電話移行サービスの動作
いいえ	○	—	デバイスはネットワークに自動登録されます。	デバイスはネットワークに自動登録されます。
いいえ	いいえ	—	デバイスはネットワークへの登録を再試行し、設定されたバックオフタイマーに基づいて再試行を続けます。	電話機の交換画面で、プライマリ内線番号と PIN の入力を求められます。
○	なし	—	デバイスは、事前設定された設定で登録されます。	デバイスは、事前設定された設定で登録されます。

管理者によって事前設定された電話またはデバイス	企業レベルでの自動登録の有効化	デバイスデフォルトレベルでのオンボーディング方式	電話移行サービスを使用しない場合の動作	電話移行サービスの動作
いいえ	○	アクティベーションコードに設定されたデバイスタイプ	電話機のウェルカム画面に「アクティベーションコードを入力してください」というプロンプトが表示されます。	電話機の交換画面では、「プロビジョニングされた新しい電話」または「既存の電話を交換」のいずれかを選択するように求められます。
いいえ	いいえ	[自動登録 (Auto Registration)] に設定されたデバイスタイプ	デバイスはネットワークへの登録を再試行し、放棄します。	電話機の交換画面に、「既存の電話機を交換してください」というプロンプトが表示されます。
いいえ	いいえ	アクティベーションコードに設定されたデバイスタイプ	電話機のウェルカム画面に「アクティベーションコードを入力してください」というプロンプトが表示されます。	電話機の交換画面では、「プロビジョニングされた新しい電話」または「既存の電話を交換」のいずれかを選択するように求められます。
○	なし	なし	デバイスはネットワークへの登録を再試行し、設定されたバックオフタイマーに基づいて再試行を続けます。	デバイスは、事前設定された設定で登録されます。

Extension Mobility を使用する電話機

古い電話機が Extension Mobility ログインをサポートするシナリオでは、移行後に新しいデバイスも Extension Mobility 機能をサポートします。移行前に古い電話機がログインしていた場合、ログインした Extension Mobility ユーザは、電話機の移行中に自動的にログアウトされます。ユーザは新しい電話機で新しい Extension Mobility ログインを実行する必要があります。



(注) ネイティブ電話機の移行では、エンドユーザの Extension Mobility デバイスプロファイルの移行はサポートされません。

CTI で制御するデバイス

電話機の移行前に古いデバイスが CTI 制御される場合、新しいデバイスも CTI 制御されます。これは、デバイスの設定が電話機の移行後に引き継がれるためです。

キー拡張モジュールを備えた電話機

古い電話機に接続されているキー拡張モジュール (KEM) が新しい電話機モデルと互換性がない場合は、電話機の移行後に新しい電話機の KEM の「拡張モジュール情報」の設定が失われます。

次の表に、さまざまなシナリオを示します。

表 5: KEM 移行シナリオ

シナリオ	古い電話機 (モデル 79xx)	新しい電話機 (モデル 88xx)	移行後の予期される動作
<ul style="list-style-type: none"> 古い電話機に接続された KEM1 は、新しい電話機と互換性があります。 ユーザが古い電話機から KEM1 を取り外し、新しい電話機に接続します。 	KEM 1	KEM 1	KEM 1 の設定は引き継がれます。
<ul style="list-style-type: none"> 古い電話機に接続されている KEM 1 が新しい電話機と互換性がありません。 ユーザは新しい電話機に互換性のある KEM 2 (真新しいまたは使用済み) を接続します。 	KEM 1	KEM 2	KEM 1 の設定は KEM 2 に引き継がれます。

シナリオ	古い電話機（モデル 79xx）	新しい電話機（モデル 88xx）	移行後の予期される動作
<ul style="list-style-type: none"> 古い電話機に接続された KEM 1 は廃止されます。 ユーザが新しい KEM 3 を新しい電話機に接続します。 	KEM 1	KEM 3	KEM 1 の設定は KEM 3 に引き継がれます。

プロダクト固有の設定パラメータ

電話機の移行中に、古い電話機の製品固有のパラメータも移行されます。新しい電話機は、電話機が認識するパラメータのみを考慮します。残りのパラメータはデフォルト値に設定されます。

電話機の移行時に[回線モード（Line Mode）]パラメータがすでに設定されている場合は、[回線モード（Line Mode）]の設定が引き継がれます。それ以外の場合、このパラメータはデフォルトで「セッション回線モード」に設定されます。

また、電話機の移行時に、[プライマリ回線のすべてのコールを表示（Show All Calls on Primary Line）]パラメータが古い電話機で設定されている場合、新しい電話機は、電話機の移行後に[プライマリ回線のすべてのコールを表示（Show All Calls on Primary Line）]パラメータを保持します。このパラメータが電話機の移行前に設定されていない場合は、電話機の移行後にデフォルトで有効になります。

電話ボタンテンプレート

SCCP 電話モデルが SIP 電話モデルに移行されると、SIP 電話は認識しているパラメータのみを考慮します。それ以外の場合、SIP 電話モデル（たとえば、標準 SIP プロファイル）からデフォルトの設定値を取得します。

古い電話機に固有のカスタム電話ボタンテンプレートがある場合、新しい電話機は、電話機の移行後にカスタム電話ボタンテンプレートを保持します。標準電話ボタンテンプレートの場合、新しいデバイスは電話モデルに固有の標準電話ボタンテンプレートを使用します。

表 6: 電話ボタンテンプレート: 移行シナリオ

古いデバイス	古いデバイスの電話ボタンテンプレート	電話移行用に選択された新しいデバイス	電話移行後の新しいデバイスの電話ボタンテンプレート
Cisco Unified IP 電話 7965 SCCP	標準 7965 SCCP	Cisco IP Phone 8861	標準 8861 SIP

古いデバイス	古いデバイスの電話ボタンテンプレート	電話移行用に選択された新しいデバイス	電話移行後の新しいデバイスの電話ボタンテンプレート
Cisco Unified IP 電話 7965 SCCP	ユニバーサルデバイス テンプレートのボタン レイアウト	Cisco IP Phone 8861	ユニバーサルデバイス テンプレートのボタン レイアウト
Cisco Unified IP 電話 7965 SCCP	カスタム 7965 SCCP	Cisco IP Phone 8861	カスタム 7965 SCCP
Cisco Unified IP Phone 8851 SIP	標準 8851 SIP	Cisco IP Phone 8861	標準 8861 SIP

コラボレーションデバイス：ルームシステム、デスク、およびIPフォン

- ビデオエンドポイントデバイスは、別のビデオエンドポイントデバイスにのみ移行できます。
- Unified Communications Manager は、CSF（Jabber for Desktop）、TCT（Jabber for iPhone）、TAB（Jabber for iPad）、または BOT（Jabber for Android）デバイスへの電話移行をサポートしていません。
- 電話移行サービスを使用してビデオエンドポイントを移行することはできません。
- 古いビデオエンドポイントデバイスがロック状態であった場合、新しいビデオエンドポイントデバイスは、電話機の移行後にロック状態を保持しないことに注意してください。

■ コラボレーションデバイス: ルームシステム、デスク、および IP フォン

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。